

JMAグループ研究発表会

長尾和宏氏も講演 600名参加

埼玉県、神奈川県で保健・医療・介護サービスを提供している社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス（神奈川県海老名市）は、関連法人の社会福祉法人ケアネット、医療法人社団静岡メディカルアライアンスとともに、1月19日埼玉県内で第7回JMAグループ研究発表会「幸せはそこの手から」地域とともに考える医療・介護・福祉の実践」を開催し、職員、地域住民ら約600名が参加した。

家族で話し合い 納得した医療を

当日は長尾クリニック院長の長尾和宏氏が「平穏死・10の条件」病院、施設、在宅において患者の望む『最期』を叶えるために」と題した基調講演を行った。長尾氏は「終末期はわかりづらい。患者、家族も終末期を感じ取り、納得して医療を受けられるよう、みんなが話し合うことが大切。終



▲約600名が参加した

末期とほいえ様々な症状がある。緩和医療も選択肢の一つにして、上手に

「共助」取り組み 高齢者を支える

その後、「最期の想いに応えたい」チーム連携からみえたもの」や「アルツハイマー型認知症合併の糖尿病看護支援」などのポスターセッション、「安全なとろみの粘度に関する臨床的研究」「地域に貢献できる病院を目指して」地域医療推進部が取り組む連携と協働」などの口述発表が多数行われた。口述発表「在宅医療連携拠点事業推進室（菜のはな）の取り組み」健康生活アセスメント調査を中心に」では、健康と生活の両面からアセスメント調査を行い、潜在的な健康・生活リスクがある地域住民を適切にサービスへとつなげるための「共助」の取り組みが報告された。会場では、発表者と参加者のデイスカッションも行われ、参加者は学びを深めた。

医療を使って欲しい」と語った。さらに「病院もホームだけに留まるのではなく、外に出て欲しい。医療・介護の垣根を越えて、『まじくる』こと。まじくるとは、みなフラットになり、オープンに話し合うことだ」と述べた。